

大野市教育環境調査研究委員会 会議結果概要

日 時：令和6年2月13日（火）午後7時00分～9時00分

場 所：大野市役所 2階 大会議室

<出席者>

大野市教育環境調査研究委員会 出席者名簿

No.	所属等	氏名	分類	備考
1	国立大学法人福井大学	まつき けんいち 松木 健一	第1号委員	理事・副学長
2	大野市小中学校校長会	やまだ よしのが 山田 善信	第2号委員	和泉小中学校長
3	大野市区長連合会	まつた とよじ 松田 豊治	第3号委員	副会長
4	大野市PTA連合会	いなづ なおみ 稲津 直美	第3号委員	会長
5	大野市立保育園保護者連合会	よねむら しょうご 米村 正悟	第3号委員	副会長
6	大野市民間保育園保護者会連合会	こいけ よしあき 小池 祥明	第3号委員	会長

大野市教育委員会出席者名簿

No.	所属等	氏名	職名	備考
1	大野市教育委員会	くぼ としたけ 久保 俊岳	教育長	
2	大野市教育委員会	よこた あきひろ 横田 晃弘	事務局長	
3	大野市教育委員会 教育総務課	さしおか てつろう 指岡 哲郎	課長	
4	大野市教育委員会 教育総務課	やまかわ りゅういち 山川 龍一	学校教育審議監	
5	大野市教育委員会 教育総務課	いそがわ ひでやす 五十川 秀育	課長補佐	
6	大野市教育委員会 教育総務課	もりなが なおこ 森永 奈緒子	課長補佐	
7	大野市教育委員会 教育総務課	はしもと えみ 橋本 恵美	企画主査	

<傍聴者>

2人

第1回大野市教育環境調査研究委員会次第

と き 令和6年2月13日(火)
午後7時より
ところ 大野市役所 大会議室

1 開会、委嘱状交付

2 教育長あいさつ

3 正副委員長選出

4 議事

(1) 大野市教育環境調査研究委員会について

(2) 大野市の教育の現状について

学校数及び児童生徒数と学級数の推移と推計

中学校再編の状況、学校施設の現状と改修計画

中学校部活動の現状

休日の部活動地域移行の状況

有終西小学校児童が進学する中学校の通学区域(審議会からの答申)

(3) 教育の現状や展望について

松木健一 福井大学理事・副学長から講話

(4) 今後の大野市の教育に関する意見交換

5 その他

6 閉会あいさつ

1 開会

2 教育理念唱和

3 委嘱状交付

4 教育長あいさつ

委員の皆様には、大変お疲れの中、出席いただきお礼申し上げます。松木委員には感謝申し上げます。

令和6年4月が目の前にやってくる。中学校5校体制から、50年ぶりに2校体制に移行する。この学校再編計画は令和3年12月に改訂させていただき、それから2年余りが経った。その際には、松木先生に座長をお願いして、何回となく議論を重ねてきた関係でこうして今日もお越しいただいている。

私の知る限りでは、このような再編計画を動かす場合、審議会や検討委員会をして、その結果として答申が出たり、報告書が出たりすると、それで会は解散ということになる。しかし大野市は、15名の検討委員会から規模は小さくしてあるが、毎年1回は、この再編計画がきちんと進んでいるのか、或いは再編計画に盛り込まれている基本理念がしっかり前に進んでいるのかということや、世の中の教育、子どもたちを取り巻く情勢に合ったような進め方が出来ているのかということ、を、しっかり検証していくためにこの会を続けている。大野市独自にいろんな方からご意見をいただくとして、昨年を引き続いて2回目となるが、大野市の学校ということで松木先生からまたお話をいただけることをとても楽しみにしている。松木先生からいただいたお話の中で、私がいつも心に置いているのは、大野市の学校は1つであって、小学校も中学校も全部合わせて1つの学校として考えなくていけないと言われたことである。大野市は3年前から、0歳の子どもたちから、教育委員会でしっかりつないでいこうという体制に転換をしている。

今、国では、こども基本法、こども大綱、またはこども家庭センターという言葉を使って、「こどもまんなか社会」を実現しようという旗振りはしているが、大野市は3、4年前からそのような体制をとっており、0歳から18歳までつないで育てられないかというチャレンジをしていて、その精神を受け継ぎながら1歩1歩進んで参る。

さて最初に戻るが、計画から2年の間に、制服、体操服、或いは通学用のスクールバスの購入や、スクールバスのルートのことなど進めており、開成中学校と陽明中学校は、3年の期間をとって大改修をしている。そして、未来志向の、子どもたちが未来に向かって勉強ができるような新しい学び舎づくりを進めている。そのようなことも含め、それぞれの立場でいろんな思いを持っていらっしゃる皆様から、限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見をいただきたい。一言お礼とお願いを申し上げ、私のあいさつに代えさせていただく。

3 正副委員長選出

委員長に松木健一委員、副委員長に山田善信委員を選出することを、全会一致で決定した。

4 次第

(1) 大野市教育環境調査研究委員会の役割について

――事務局から説明、委員からの質問、意見なし――

(2) 大野市の教育の現状について

――事務局から説明――

【米村委員】中学校のスクールバスについて、試乗会を1度行っていて、近いうちにまた6年生を対象に行うということだが、試乗会を踏まえた結果、バス停をもう少し多めにしようとか、変更することはあるのか。

【事務局】スクールバスについては、前回、今の1、2年生を対象に実際にルートを回ってみて、現在設定させていただいているバス停等で特に問題ないということを確認させていただいている。また、来年度からにはなるが、バスがどの辺りを走っているのかを、保護者の方々が確認できるような装置を設けることとしている。その確認も含めて、前は中学生の生徒たちに状況を体感してもらったが、次に中学校1年生になる生徒たちにも、大体どれぐらいの時間がかかるのかということを確認していただきたいと考えている。また保護者の方からも、どれぐらいの時間がかかるのか、どのような感じなのかが知りたいという声もあったので、それも含めて、再度実施させていただきたいと考えている。

(3) 教育制度の現状や展望について

【松木委員長から説明】

学校再編の意味を再度考えてみたい。これからの社会を予想する。

1) 世界の人口について

- ・人口が急激に増えたのは20世紀になってから
- ・人口が増える原因は、子どもがたくさん生まれることと、寿命が延びたこと
- ・長生きするようになったのが、人口が増えている大きな理由の一つ
- ・21世紀を過ぎると人口は減っていく。
- ・2040年問題 若者が3人で、65歳以上の人2人を支えることになり、かなり大変な時代になる。
- ・日本は急激に人口が増えたが、これから急激に人口が減っていく。
- ・明治初期の頃と同じくらいの人口数
- ・経済を維持しながら、地球環境を守っていかなければならない。
- ・かなり大胆な発想の転換をしないと日本を維持できない。
- ・人口増加のための施策だけではダメ
- ・産業構造自体がかわってきた。働く場所をつくれれば人が増えるわけでもない。
- ・労働集約型、資本集約型からかわってきている。
- ・「末は博士か大臣か」は過去の話
- ・「都市集中型」か「地方分散型」かの発想では解決できない時代になっている。
- ・人と人が触れ合うことの出来る100名から300名規模（縄文時代の一番大きな村の大きさ）のコミュニティ
- ・すべての世代が関われるような「新たな家族主義」
- ・命をつなぐことが維持できるような大きさ

2) 地球環境の変化

- ・地球環境が大きく変わった。
- ・世界的に1.5度以上の温度の上昇があったら、元には戻らない。
- ・2030年までにカーボンニュートラルを実現することは不可能
- ・地球の人口は、今世紀末には100億人を超えると言われている。
- ・世界規模の爆発的な人口増加で、食糧難が起こる。
- ・食糧増産のための耕作地拡大は、森林破壊につながる。
- ・自然という資本を守り活かすための経済の在り方を見直す。

- ・大野は恵まれている。豊かな自然が活かされている。
- ・自然は最も優れたセラピスト
- ・働きながら畑を耕すことができる。
- ・みんなで生産活動ができる。大野には生産活動ができる場所が与えられている。
- ・自然に支えられた伝統行事等の中に幸福を見い出していくのに大野は有利
- ・アジアやアフリカの人口は爆発的に増えていく。
- ・大野に外国からたくさんの人が移住してくれて、大野にたくさん外国人が住んでいるのは素敵なこと
- ・女性がちゃんと働ける社会にしないといけない。

3) 文明の進化

- ・デジタル化が急激に進んだ。
- ・2045年に人工知能が人間を超える。
- ・無理矢理、知識や技能を覚えるだけの学びはやめた方が良い。
- ・学校で一生懸命覚えたことがパソコンですぐに調べられる。
- ・知識をどのように活用していくかが大事
- ・「覚えることが大事」だと、先生も親も身につけているから簡単には変えられない。
- ・一番欠けているのが「共存する力」「対話する力」

<大野の在り方>

- ・こういう未来をつくるために、今何をすべきかと考えていく。
- ・まずはゴールを決めて、ゴールに近づいていく。
- ・学校が大野のまちづくりの核になる。
- ・家族の単位を小学校区単位で考えていく。
- ・お年寄りが子どもの面倒をみたり、子どもがお年寄りの面倒をみたりする単位を、家族ではなく小学校区単位で実現していく。
- ・小学校の建物に併設してコンビニ、銀行、デイサービスなどをつくり、スクールバスもコミュニティバスも一緒に走る。
- ・給食も一緒。幼児の給食の準備をお年寄りがしてくれる。動けなくなったお年寄りの食事を、中学生が自分の給食と一緒に準備する。
- ・そこに行けばお年寄りに会えるまち。そこに行けばいつも子どもたちの笑い声が聞こえるまち。集落型のまちをつくる。
- ・大野市の真ん中に一つつくるのではなく、人が通える小学校区の範囲でつくる。

- ・ 集落型で分散型のまちづくりを進めていく。
- ・ 小学校の児童数は20年後には今より500人減るが、小学校の数を減らす必要はない。先生の数が減ってしまう。
- ・ 中学校も2校体制が良い。
- ・ 大野の学校教育とのベストマッチング
- ・ 今までの学校のイメージは工業化を支える学校だった。
- ・ 知識中心の学校から抜け出さなくてはいけないのは先生と保護者である。
- ・ 知識はパソコンが教えてくれるため、先生の役割は変わる。
- ・ 先生には今までと違う役割が生まれている。
- ・ 学校には先生が必要か必要でないか、学校には場所が必要か必要でないか、二者選択ではなく、状況に合わせて両方が成立するような学校づくりを考えていかなければいけない。
- ・ 学び合いが必要か、もちろん必要である。ただ、生の学び合いではなくてもできることはたくさんある。
- ・ でもやはり一緒に学び合わなければ成り立たないこともたくさんある。
- ・ 生まれてから死ぬまで学ぶことが喜び
- ・ 知識が必要かどうかということではなく、力を合わせて知識を生み出していくことが、今求められている学びなのかもしれない。
- ・ 「進取の気象」先進的な取組は大野から始まる。
- ・ 学校は、幼稚園、小学校、中学校、高校と分けるのではなく、一体として大野の子どもを育てる仕組みをつくるのが大事
- ・ 先生を育てる仕組みを学校の中に入れる。
- ・ 今までの学校はそれぞれ独立していて、校長が中心となってまとめているが、今後は大野市に1つの学園をつくり、学園長を置き、校長がその下につく。
- ・ 大野市全体でICTでつないで学習をする。
- ・ 小学校の高学年と中学校を合わせて教科担任制を取り入れる。
- ・ 小学校の中で、1つの教科を一番得意な先生がオンラインで授業を配信する。
- ・ それぞれの小学校にも教科担任がいるので、1つの授業に先生が2人入ることになり、サポートもできる。
- ・ 子どもたちが同じ授業を受けて、大野市全体で一緒に考えることができ、先生同士も優れた授業を見ながら学び合うことができる。

- ・小学校低学年は、国語や算数ではなく、「暮らし」や「結」などの授業づくりを試みて、幼稚園やこども園の先生方と研修会を行えるような組織をつくる。
- ・中学校はそれらを全部見られるような形にして、探求や総合の学習をする。
- ・「結の故郷総合学園祭」のようなみんなが交流できる場をつくり、それぞれの学習の発表をする。
- ・それらが実現できれば、質の高い教科の授業や、次世代の教員の学びや、ICTの推進、大野市独自の「進取の気象」の授業につながる。
- ・課題はたくさんあるが、可能性もたくさんあると思う。

【米村委員】最後の方の、1学園の構想がすごくいいと思った。一番良い授業をみんなが聞けるというのは、ネット環境を利用してこそ可能になるが、授業以外の部分で学校生活の中で良い部分もあると思う。そういうところのフォローというのはどうか。

【委員長】オンラインでできることには限界があるが、授業だけではなくて、例えば大きなモニターが教室の中にあって、朝来たら、おはようと隣の学校の子どもたちともコミュニケーションがとれるような状況をつくることも必要かと思う。でもやはりオンラインだけではなくて、生身で触れ合うコミュニケーションも大事で、そのメリハリを学校の中につくれば良いと思う。

【副委員長】私は昨年もこの会議に出て、松木先生から、学校の子どもたちが地域に出て、地域の皆さんに育てていただいて一緒に活動するというその活動は、子どもたちを育てていくだけではなくて、そうすることによって地域も育てられるとお聞きした。私はすごくそれが印象的だった。今、和泉小中学校という非常に小規模のへき地校にいるが、本当に地域と密接に関連していて、中学校が再編されて陽明中学校に行くことになるのだが、地域の人たちが、今度中学生になっていく子どもたちをいかにこれから後の活動に引っ張っていこうか、繋いでいこうかということをしごく考えられるようになった。やはり、そういう年代の子どもたちが地域で果たしている役割がとても大きい。中学生や小学生の活動によってまた地域が活性化して、新たな再編という形で地域でも、その後の地域の成り立ちという少し大げさだが、その後のいろんなものをどうしていこうか考えているということをしごく感じている。

やはりこれからは、学校だけで全部子どもたちを育てていくというのは本当に難しい時代だと感じている。いかに地域と学校が一緒になって子どもたちを

育てていくかということが本当に大事なんだと、今日お話を聞いて改めて学ばせていただいた。

【委員長】今の話に出たように、地域を育てていく学校であってほしいと思う。

長野県伊那市にある伊那小学校は、牛を飼っていたり、稲を育てていたり、家を建てていたりする。私が子どもの頃には学校にも田んぼや畑があって、田植えをしたこともあるが、伊那小学校では生き物を飼っている。生き物は、学校が土日休みだからといって餌をやらないわけにはいかない。土日の牛の世話も子どもたちがしている。子どもが餌をやるために、保護者が一緒に連れてくる。保護者も大変だが、当番の時には一緒に餌をやり、糞の始末をして、乳搾りもする。牛が病気になった時は、地域の獣医さんに来てもらう。牛の餌の飼料を買うために、子どもたちが空き缶集めをする。地域の人たちがみんな協力して空き缶を用意しておいてくれる。学校と地域が結びついて一緒に活動することで、子どもも地域も育つことにつながっている。そのような可能性が大野市にはたくさんあると思っている。伊那小学校には、この2、3年で児童数が50名増えた。都市部から移住してきている。学校が核となって地域を育てていけると良いと思う。

(4) 今後の大野市の教育に関する意見交換

【松田委員】自分の子どもは大学を卒業するような年齢で、今の教育がどういう具合かはあまり分からないが、教育というのはいかに小さい時から、例えば、本を読んで聞かせたり、いろんなことに関心を持たせたりなどしていった方がその後も伸びるのではないかと思う。

それと、オンラインで授業を受けて、同時に情報を提供して、みんながそれを理解して、次に進んでいくことが全てできるならいいが、子どもによっては差があると思う。そこをいかに全員を引き上げていくというか、みんなに理解してもらうというか、そういうところをどうしていくべきかと考える。

それから、農業のことについて先ほどお話があったが、現状では農業をする人がどんどん減っている。組織や認定農業者の方へどんどん行ってしまい、農業に取り組む人がいない中で、農業のことをどう伝えるかということも気になったところである。

【稲津委員】私は、子どもたちに関わる仕事をしていて、今、幼稚園、こども園、保育園では、遊びの中から学ぶということで、主体的に関わって活動をしてい

こうとしている。私の勤め先でも、子どものやってみたい気持ちや、こういうことができるといいなということから学びにつなげている。大野市も、何年か前から0歳児から18歳までの教育をしていて、これからの教育はどのようになるのかとすごくウキウキワクワクしている。先ほどの、小学校に行けば何でもできるからと、地域の方が小学校に出かけていくという話を聞いて、多分今の状態だと小学校の子も地域の方と関わることがあまりないと思う。家の子もスクールバスで学校に通っていて、地域の方も、地域にどんな子がいるのか分からないと思う。私も、現に住んでいる地域にどういう子がいるのかも分からない状態なので、これからどうなっていくのかは分からないが、先生のおっしゃっていた小学校単位のコミュニティづくりというのがすごく夢があって、実現していくと良いと感じた。

【米村委員】大野市全体で、小学校単位でのコミュニティというのはすごく良い考えだと思った。オンラインで授業をしたり、どんどん質の高い授業を受けられる一方、教育に関してはあまりよく分からないが、地域としては、昔に比べると子どもが少なく、地域としても子どもとの繋がりが薄く感じる。

家には子どもがいるので、近所の人からいつも賑やかでいいなと言われている。外で遊んでいる子どもの声が聞こえる地域もあるかもしれないが、どんな子が今この集落にいるのか全く分からない地域もあるかもしれない。これから、教育に関してはどんどん良い感じに進んでいくと思うが、大野市全体で、その地域をいかに教育とつなげて、それぞれのコミュニティも活性化させていくのかということが課題なのではと思う。

【小池委員】私も障害福祉の仕事をしていて、地域で障害のある方を支えていこうという話もあって、先生の話に共感できる部分もあった。小学校、中学校を1つの学校としてオンラインでつなぐとか、そういう便利な世の中になっているので、うまく活用できるといいなと思った反面、自分の仕事でもオンラインで研修することはあるが、実際に会って話ができるといいなと思うことがある。教育だけではなくて、子どもの登校や下校の安全確保など、いろいろなことを地域で考えていけたらいいなと思っている。

【副委員長】お話を聞かせていただいて本当にいろんなことを考えたが、1つは和泉小中学校は小中併設校なので、小学生、中学生、保育園も一緒に入っているので保育園児も校舎の中にいる。そういう環境自体は、松木先生がおっしゃっ

ていた環境に非常に近いかなと思う。実際に、中学校の教員が小学校に行って授業をするということもしている。

指導に関しては、なかなか松木先生がおっしゃるような形にはいかないが、ただ1つ言えるのは、幅広く年齢の違う子どもたちが一緒にいることは、非常に教育効果が高いことが多いと感じている。下の子たちからすれば、年上のお兄ちゃんやお姉ちゃんというのはものすごく憧れの対象であり、いろんなことのロールモデルというか、自分がこういうふうにできるようになりたいという身近な目標になるということがものすごく大きい。そして、上の子たちからすれば、年下の子たちが一緒にいるということで、まず自分たちのやりたいことをする前に年下の子たちの面倒をよく見るようになる。そういう意味で、すごく社会性が育つと感じている。異学年でのいろんな活動や授業ができることがとても良いことだと感じている。

もう1つは、地域と一緒に子どもたちを育てていくという部分である。私も学校現場にいるが、今のような情報が非常に幅広くあって、いろんな情報が入手できて、いろんな価値感を持った子どもたちや保護者がいる中で、学校がそのすべてのニーズに答えるのは難しい時代が来ていると感じている。部活動の話もあったが、そういうものすべてを保護者の要望に答えられる形にするというのは難しい。そういった意味でやはり、いろんな教育環境で多様性というのが実現できるようにしていくべきだと思っている。部活動のことで言えば、いろんな地域クラブがあれば、学校より選択肢も広くなるし、いろんな指導者につくことができると思う。学校だけじゃなく、地域で子どもが学べる場、子どもを育てていける場というのが、これからいろんなところでできると素晴らしいなと感じている。

【教育長】私は、松木先生から言われた、大野の学校が1つということをいつもイメージしている。実際に、同じ場所で学ぶということはなかなかできないが、意識としてはそういう方向である。

4月に中学校2校になる。2校になると、どういう化学反応が起こるのかというのも楽しみにしている。5校の中学生と、小学校5、6年生の子たちにアンケートをして、制服と体操服を選んでもらったところ、新開成中学校も新陽明中学校も同じ制服と同じ体操服になった。大人の中では、そうするとどちらの中学校の子か分からなくなるからどうしようという話もあったが、区別する

必要はなくて、場所は2つに分かれているけど、大野の学校は、大野の子どもたちは1つの意識で学んでいるという形が出てきている。

2つ目に、今小学校も含めて、どんどん地域へ出て行って勉強をするということが普通になってきている。地域が勉強の窓口というか、大野のことを勉強しているけど、福井ではどうなんだろうとか、日本ならどうなんだとか世界になるとどう思うんだろうというように、小さいところから大きく広がっていくという勉強の仕方をしていて、その一番身近な場所が地域になっている。そういう形なので、今どこにどういう子がいるか分からないというところもあるかもしれないが、学校がどんどん地域に出ていくので、そういうところで面倒を見てもらえるありがたいと思う。

最後に、この再編計画の中で、中学校と小学校のミッションの違いというのを、大野市はきちんと出している。中学校は大野市全体で育てる。小学校は地域のあたたかいところで、見守りの中で育てる。そういうミッションの違いがあるということをしつかり押さえながら、小学校中学校一緒に、また高校や子ども園の子たちにもつなげながら、イメージしている大野は1つというところへ向かって1歩1歩進めていきたい。その大きな転換点が、来年度4月1日である。2校になり、そこからどういう広がりになるのか楽しみである。さらに頑張っていきたいと思っている。

【委員長】最近健康食品のCMばかり見る。どんな健康サプリメントより、小さい子が「おじいちゃん」と一言声をかけてくれる方が、よほど健康になれると思う。

大野は「結の故郷」で、「結」は人と人をつなぐということ。お年寄りと子ども、小さい子と大きい子がつながれる。そこには優しさが生まれたり、責任が生まれたり、アイデンティティがつくられたりする。そんな「結」の故郷になれば良いと思う。

以上で閉会とする。

5 その他

――事務局から事務連絡――

6 閉会

【副委員長】本日は皆様、長時間にわたり、各々教育に関しての貴重なご意見をいただきお礼申し上げます。

私の立場としては、今中学校の再編があり、それからその先に向かう小学校の再編があり、目の前にある再編に向けてどうすれば良いかと考えることが多いが、今日は、大野学園構想という松木先生の本当に夢のある素晴らしいお話をお聞きして、少し視線が上に上がって、何か楽しいワクワクするような気持ちを感じることができた。大野市もこれから再編を迎え、その後のことについてもたくさん課題はあるが、今日のように皆様からご意見をいただきながら、素晴らしい大野の教育が出来上がっていくといいなと強く感じている。

本日は長時間にわたり意見交換いただき、感謝申し上げます。

終了 午後9時00分